



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 “On the Move!!” 「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を」

2019年7月号

NO 514

喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。

ローマの信徒への 手紙12章15節

いつも自然体で！楽しい例会参加 篠原文恵

今期、東京西クラブの会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

入会して15年、いつまでも人に頼りきりのワイズ生活でした。同時入会の大野貞次さんはあずさ部部長やYMCAユース担当、教会の幼稚園長などを務め活躍、6月まで会長職の本川悦子さんは例会を楽しくする工夫で例会ゲスト数を伸ばしました。

さて、劣等生の私に何ができるかと考え過去のブリテンを振り返ってみました。そこにはクラブの先輩方が生み育てた沢山の企画がありました。

「こおちゃんのWellness」の実践の場である体操教室、好奇心を満足させてくれる毎月のWHO、これらは入会のきっかけとなり、会場を提供してくれた木原洗さん達とのバザー開催、応援している国際ホテル学校生との交流は

楽しい思い出でした。

ブリテン記事では竹内隆さんの老年医学講座、幅広い人脈を持つ吉田明弘さんのインタビュー記事、数えあげれば沢山の宝物がありました。半面、体力的にできなくなった行事もあります。

平均年齢がかなり高くなってしまった現在のメンバーでは、体力では無理でもアイデアを持ち寄り、魅力的なクラブ作りを目標に頑張ることになるでしょう。

勿論、頭を柔らかくして新しいメンバーの獲得に努力しなければ健全なクラブとはならないと思います。

とは言え“言うは易く、行方は難し”。水鳥の足のようにせめて足を止めず頑張りたいと思います。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



新旧役員の交代式

東京西クラブ新役員のご紹介

(諸担当役員)

- 地域奉仕 神谷 幸男
- 高嶋美知子
- 会員増強 吉田 明弘
- 鳥越 成代
- 国際・交流 神谷 幸男
- 村野 絢子
- ユース 大野 貞次
- WHO事務局 石井 元子
- 監事 山田利三郎
- 鳥越 成代
- ブリテン 鳥越 成代

クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 神谷 幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 木川 拓

6月の記録		ニコニコ	6,840円
在籍者数 15人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	0円
出席者数 10人	コメント 0人	ファンド残高	156,447円
メーカーシップ 2人	ビジター 3人	ホテル校ファンド	5,000円
出席率 86%	ゲスト 4人	奨学金	100,000円
		ホテル校残高	979円
前月修正 -	出席者合計 18人	WHO参加者	29人

7 月例会案内

今月の強調テーマ：

キックオフ・YMCA・RBM

さあ…、篠原会長とともに東京西ワイズメンズクラブの新しいプログラムをスタートさせましょう。例会には臨床心理士・宮崎加奈子先生を迎えお話を伺います。題は「睡眠の話」。楽しみです、ね、皆さんお友達を誘って集合です。

日時：6月18日(木) 18:45~21:00

会場：「ウエルファーム杉並」4F 集会室

(杉並区天沼 3-19-16 03-535-7330)

会費：1,500円 (ゲスト・ビジター)

担当：C班 (大野、篠原、村野、小山、山田)

HAPPY BIRTHDAY

8日 神崎 清一 16日 河原崎和美

21日 木川 拓 30日 山田 紀子

開会点鐘

ワイズソング (いざ立て)

聖書朗読・感謝

挨拶・ゲスト&ビジター紹介

会食

受付 本川 悦子
司会 大野 貞次

篠原 会長
一 同

村野 絢子
会 長

卓話 「睡眠のはなし」 宮崎加奈子さん
臨床心理士・公認心理士・精神保健福祉士

ハッピーバースデー

会 長

諸報告 (地域奉仕、会員増強、国際・交流、ユース)

会 長 他

YMCA 報告

担当主事・木川 拓

ニコニコ献金

一 同

閉会点鐘

篠原 会長

—6月第2例会(事務会)—

日時：6月27日(木)

18:15~21:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①6月のデータを確認した。
 - ②6月の月次会計報告を一部修正して、承認した。
 - ③山田利三郎さんの近況について、吉田明弘さんから報告があった。
 - ④深尾香子さん(東京多摩みなみ)から、香港 YMCA 研修生のもてなし学習(お茶会)の企画書が提出された。クラブメンバーの有志は、7月24日(水)午前9時、荻窪の太田黒公園茶室に集合し、深尾さんの指示に従う。
 - ⑤杉並 Y 会員の石川喜代子さんから、82円切手30枚を寄贈頂く。
- <協議事項・例会関係>
- ①7月、9月例会の卓話候補者が上がり、7月については、後日決定した。

②8月納涼例会の期日を、8月22日(木)に変更する。会場と内容は月当番に委任する。

③本川悦子さんの申し出により、例会当日、会場での室料精算、マイク等の借り出し、撮影許可の申請、CD係を本川さんが担当する。

<協議事項・例会以外>

- ①山田利三郎さんの今後については、功労会員という方向で、本人に確認する。
 - ②2019~20年度監事を、山田利三郎さん、鳥越成代さんとする。
 - ③新年度のブリテン編集体制を、原則として下記の通りとする。(篠原文恵さん提案)
 - ・最終版下作成者(アンカー)は鳥越成代さん、編集担当者は、大野貞次さん、神谷幸男さん、吉田明弘さんとする。
 - ・その月の編集担当者が、企画、原稿依頼、草稿整理を行い、概略のレイアウトをアンカーに引き継ぐ。
 - ・執筆者は原稿を、編集担当者に送る(CCをアンカーに)
- (書記・石井元子)

卓話者紹介

宮崎加奈子(みやざきかなこ)さん

慶応義塾大学文学部卒、国際医療福祉大学大学院博士課程満期退学。

精神科病院、長寿医療センター研究所に勤務後、2016年までがん研究会有明病院の常勤心理士として患者と家族、遺族の心のケアに携わる。

現在は「宮崎カウンセリングオフィス」を開業し、がんに関わる方のカウンセリングを行い、2019年4月より、東京医科大学病院・緩和医療部・緩和ケアチームの心理士として非常勤勤務。

会計からのお願い

半期分の会費を例会に持参か、振込でお願い致します。

振込先

みずほ銀行方南町支店

普通口座 8027928

東京西ワイズメンズクラブ

(会計・高嶋美知子)



ホテルマンとしてのスキルも備えたホテル学校留学生



右は、蘆花の最初に購入した旧居。左は梅花書屋

－ 6 月例会報告 －

6 月例会は、1 年の活動を評価し、新役員体制で、新年度のスタートに向かう月、20 日に開催された。私費留学生奨学金贈呈式、クラブ定期総会、役員就任式の順に進められた。

贈呈式は木川担当主事が業務で欠席のため、東京 YMCA 国際ホテル専門学校校長の小畑貴裕さんが引率、留学生を紹介された。事前に自己紹介をブリテンに顔写真と共に掲載され、自己紹介文も別刷りで準備されていた。

ネパール出身のオリ・ハリバクタさん(男性)とライ・スリジャナさん(女性)は、安全な日本でキャリアアップをして、ネパールはまだ世界から遅れているのでこれから自分がネパールを良くしたい、ネパールの地元の観光地でホテルを経営したい…等と夢を語った。

中国出身のタイ・ケイセイさん(女性)とリ・テイさん(女性)は自発的に動く日本人と日本のドラマが好きで、プロのホテルウーマンを目指し、オリンピックに全世界からのお客様を笑顔で迎え、最高のおもてなしをして、ずっと日本に住みたい…等と語った。

4 人の輝く笑顔と若さ、滑らかな日本語のスピーチに室内が明るくなった。そして、本川会長から 4 人の留学生に奨学金が手渡された。

2018～2019 年度クラブ総会となり、本川会長の議案により、議

事 1・活動報告として WHO 活動参加、YMCA 留学生支援についての報告に続いて YMCA 関係、IBC、DBC 活動の報告がされ承認された。議事 2 の会計決算報告、次年度予算案は 7 月例会にて行う。議事 3・新役員が紹介され、未決の事業委員などを決めた。

役員就任式は吉田明弘さんの司式で 90 年前に定められた式辞の全文が読まれた後、新役員が宣誓し就任が宣言された。本川会長から篠原新会長に、石井書記から神谷新書記に、河原崎会計から高嶋新会計にバッジの交換がなされた。(村野絢子)

例会出席者:<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、<ビジター>藤井寛敏(東京江東)、太田勝人(町田スマイリング)、<ゲスト>小畑貴裕、オリ・ハリバクタ、タイ・ケイセイ、ライ・スリジャナ、リ・テイ(ホテル学校)、<メネット>神谷雅子、<メイキャップ>神崎(東日本区大会)、木川(YMCA 出張)

徳富蘆花が遺した”武蔵野

WHOウォーキングのご案内

WHO・6 月 22 日は、都立祖師谷公園の草花と、“美的百姓”として晩年を過ごした徳富蘆花の都立蘆花恒春園に武蔵野の面影を訪ねるコース。

内心、暑いより小雨の方が良いと思っていました。京王線千歳鳥山駅から午前 9 時 45 分、29 人で

出発。早くも、ポツリと来ました。

祖師谷公園は、さして広い公園ではありませんが、最後に寄った 200 坪ほどの三角花壇が見どころでした。丈の高い濃い色のスカシユリなど園芸種が、投げ活けのように調和していました。米国原産のアジサイの一種、アナベルの花の大きさ、重量感には驚きました。思わず掌に受けて重さを確認する人もいました。

世田谷百景のひとつ安穩寺から一路、蘆花恒春園へ。それぞれ小雨を避けて昼食休憩。その後、花の丘を巡り、蘆花が明治 40 年に最初に購入した 15 坪の萱屋、その後移築した家屋と夫妻の墓地を公園スタッフのガイドで見学出来ました。

蘆花の没後土地建物とともに、愛子夫人が整理した原稿、遺品など一切を東京市に寄贈され、それらを活かして建てられた資料館で、蘆花の生涯とその時代に想いを馳せました。

公園名を由来とする京王線芦花公園前駅に向かい、途中、世田谷文学館に入り、解散しました。天に思いが通じたのか、解散まで傘を差したり、すぼめたりでした。蘆花の愛してやまなかった武蔵野の農村の面影は、1970 年代には消え、今や蘆花恒春園と作品『みみずのたはごと』に留めるのみです。(吉田明弘)

ワイズ関係参加者は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)、関(石巻広域)

一東日本区大会報告一

6月1～2日、代々木のオリンピック青少年センターにおいて第22回東日本区大会が開かれた。

開会式セレモニー、理事年次報告、各部部長報告等のあと、記念講演では、被爆者でもある歴史研究家の森重昭さんによる「原爆犠牲者に国境はない」。戦争当時は「敵」であった米兵のことを自分の家族のように調査し続け、遺族達に事実を伝えたということで、来日したオバマ大統領から抱きしめられた光景は有名です。

晩餐会では、賑やかな交流、アピール大会の中、急用で欠席した当クラブのメンバーの席にYMCA ボランティアの女性が着席してくれ、日頃の活動を聞くことができたのは思いがけない収穫であった。

2日目は各事業報告、各種表彰があり、来年の北海道・十勝での再会を期して閉会となった。当クラブからの参加は、大野、神谷、神谷M、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田の皆さんでした。

(篠原文恵)

一西日本区大会参加記一

2018-2019年度西日本区大会は6月22・23日に、京都トゥービークラブのホストによって、京都平安神宮の近くにあるロームシアター京都において開催された。当日は曇りがちの天気であったが、暑くもなく風心地よい快適な天気であった。開会前13時頃には参加者が続々と参集し、我々も開扉までの待ち時間、1年ぶりに会う友人たちとそれぞれに旧交を温めることが出来た。

本大会はペーパーレスを指向しているため紙のプログラムは配布されず、示されたQRにアクセスして大会の情報を読み取ることとなっていた。

大会第1日前半は、概ね型通りの運びだったが部長報告は時間に追いかけることなく十分

な報告で好感が持てた。後半は懇親会。会場を「ウェスティン都ホテル京都」に移して18:30に開宴。乾杯に続いて和服姿の京都市長の祝辞。食事はフランス料理のフルコース。食事の間も、12人掛けのテーブル70台程が設置された大宴会場を右往左往して酒を酌み交わす人々、記念写真を撮り合う人々で大賑わい、よい交歓ができた。21:00お開きとなった。

第2日は、9:20～50主日礼拝。小休憩の後、各事業主任報告、各事業主任表彰、理事表彰、理事・役員引継式があって、12:30西日本区大会は盛大の内に終了しました。(神谷幸男)

ペンタゴンDBC会合参加記

大会終了後、会場近くの料亭でおこなわれ、約40人の東京西、京都ウェスト、大阪西、神戸西、熊本にし各クラブのメンバーが参集した。京都ウェストクラブの元気のよいメンバーが司会を務め、森田代表幹事のあいさつ、神谷東日本区大震災復興支援会計幹事の会計報告、乾杯があって食事となった。

各クラブ会長によって各クラブの近況、アピール等がなされ、美味しいお酒と美味しい料理を飲み食いしながら大いに歓談。顔なじみが多い中、初対面メンバーもあり、ペンタゴンDBCの交流の輪が少しずつ広がっていくよい会合であった。初対面のメンバーと名刺交換しなかったのも、お名前を忘れてしまったのは残念であった。また畳の部屋で行われたためか、また手狭なこともあって卓間の行き来があまり行えず、挨拶もできなかったメンバーもいて、少々残念なところもあった。この日のうちに帰宅するものもいて、アジア太平洋地域大会での再会を約して早々にお開きとなった。東京西クラブの参加者は、大野さん、高嶋さん、神谷夫妻でした。(神谷幸男)

YMCA Today

■ホテル学校では一学期も終了。2年生の就職活動も一次のピークを終え、現在の内定率87.2%。これからは夏季休暇後の取組みとしてチャリティーランや街頭募金、山手バザー、ソフトボール大会など、YMCA全体への協働として有志を募っています。

■6月8日～14日の期間にボランティアをテーマに「ワールドチャレンジ」が実施されました。これはYMCAが誕生した6月6日を覚え、毎年世界中のYMCAが共通テーマを設けてアクションを起こすもので、東陽町センターでは「クリーンウォーク」として地域清掃活動を実施。社会体育・保育専門学校の学生、にほんご学院の留学生、英語幼稚園やインターナショナルスクールの生徒たち、ウェルネス東陽町スタッフ、一般企業の社員ボランティアの方々等、総勢132人が参加。また、インターナショナルスクールの生徒たちがホームレス支援のNPOを訪問し、食材を寄付しました。

■6月22日、「第22回会員芸術祭」のオープニングセレモニーが東陽町センターで開催されました。開幕のテープカット、菅谷功先生(新槐樹社準委員)による講評、ウクレレ演奏等があり、出展者同士の交流がはかられました。今回は47人70作品の出展があり、6月29日までの期間中は会員やワイズメンズクラブの方々に受付などのご協力をいただいています。

(担当主事 木川 拓)

WHOレポートは、ウォーキングが、7月、8月は夏休みのため休刊です。東京YMCAのHPで、これまでの活動を見ることができます。



<http://tokyo.ymca.or.jp/community/2019/05/20190529.html>

☆☆☆ インタビュー ☆70☆
大澤 和子さんに聴く
所沢クラブ



—大澤さんのお生まれは。

「神奈川県逗子市です。東京の築地、板橋で育ちました」

—ワイズとの出会いは。

「2人の息子が、高校生と大学生だった時に、YMCAのフィリピンワークキャンプに連れて行っていただきました。帰国報告会でYMCAの素晴らしい取り組みと子どもたちの目の輝きが素敵で。私が勤務していた小学校の校長と当時の総主事の勧めもあり、所沢クラブに入会させていただきました」

—子どもの頃から、先生になりたいと思っていたのですか。

「はい。小学校1年生の頃は手も上げられない内気な子どもでした。3年生の時の担任が子どもの気持ちをよくわかってくれる先生でした。初めて手を挙げた時、手の挙げ方と話し方をほめてもらいました。こんな先生になりたいと、子ども心に思っていました」
—勉強は好きでしたか。

「勉強が楽しくて好きで、担任に『高校はどこにでも入れる』と言われていました。進んだ高校で反抗しました。一番嫌だったのは、先生の言っていることとやっていることの違いでした。嫌いな先生の授業では無視したり、テストでは答案用紙に『裏を読め!』とだけ書いて、裏に批判を書き連ねました。安保デモに参加したり、1日中アイススケート場にいたりしたこともありましたが、2年生の時に衝撃的な事件が起こり、悩み悩んだ末、思い直して懸命に勉強を始めました」

—小学校に勤務され、学級崩壊のクラスを担当されたそうですね。

「私は特別支援コーディネーターとして相談業務を担当していましたが、定年前に4か月間、学級崩壊した6年生のクラスを担当することになりました」

—「学級崩壊」とは、実際にどういことが起きるのですか。

「今では笑い話として、1時間でもお話しできますよ。黒板に向いていると消しゴム投げが始まります。それぞれ好き勝手に話し、私が何かをやろうと言うと、1人が『やりたくねえ』と叫び、皆が『やりたくねえー』と唱和します」
—厳しくてもやさしくても上手くいかないようですね。

「私は、食べ物の好き嫌いは多いし、忘れ物はあっても当たり前の、かなりのプツン人間です。そんなゆる〜い担任だったので、崩壊クラスの子どもたちには、良かったのではないかと思います。でも厳しかったかもしれません。弱者いじめと授業妨害だけは許しませんでしたから」
—その経験を書かれた本が小学校の新任教師の教育用に使われているそうですね。

「テキストにした指導教官もいらっしゃるということです。教頭先生から経験を後輩に伝えて退職して、と言われたので学級通信を抜粋してプリントして、お世話になった人に差し上げました。幸い好評で自主出版しました。幼稚園から海外の日本語学校までの若い先生や子育て中のママたちに読んでいただいています。その後は、「学級崩壊を防ぐ5つの秘訣」を加え、増刷を重ねて、6刷目、600冊印刷しました。今は1,000円で買っていただき、東日本大震災の支援金として400円をYMCA/ワイズを通じ東北に送らせていただいています」

—『1年1組物語・6年1組物語』ですね。読ませていただき、小学校の時に先生から言われたいろ

いろな言葉を思い出しました。今はどのような仕事を。

「ライフワークと思っているのは、ジョイスタディーという学習支援教室の運営です。学校の一斉授業では難しい子や、生きづらさを感じて教室に居場所がない子たちに寄り添っています。約30人くらいの子どもたちを15人のスタッフで支えています。低額の授業料なので、スタッフにも十分に手当てを出せません。オール1の中学生が、3か月でオール2になり、今では4か5をとれるようになったり、不登校だった子が、高校の卒業式で答辞を読み、大学の入学式では、新入生代表になったりするなど、輝く子どもたちの姿に元気づけられています」
—ご主人の遺志を継がれてフィリピンでも。

「よくご存じで。埼玉YMCAの二子石総主事が退職後に作られた特定非営利活動法人CFFジャパンを応援しています。長男が初代の事務局長でした。フィリピンのCFFの小高い丘の中腹に分骨して埋葬した夫のお墓がありますので、時々訪問します」
—趣味は。

「毎日1,000mから1,500m泳いでいます。ダイビングは、10年以上潜っています」
—YMCAとワイズに加わって良かったことは。

「社会に対してまっすぐな青年たちに出会えること。ワイズメンズクラブのメンバーは、理想主義者。暗い世の中を照らす小さな光です。小さな光ながら、集まれば大きな光になるだろうと…」
—ワイズに対する夢

「もっとメンバーが増えてほしいです。一緒に楽しく有意義な社会参加活動がしたいです」
—何かの時に浮かぶ言葉は。

「すべての人に何もかもはできないけれど、誰かに何かはできる。ボブ・ピアスさんの言葉です」
—有難うございました。(吉田明弘)

旅で出会った人 ⑩

村野 絢子

ドイツ・オーバーアマガウの受難劇

10年に1度開催される受難劇を家族3人で観に行った。20年前から望んでいたが2000年はミレニアムの騒ぎで止めた。2010年、長女の和泉が直接オーバーアマガウに問い合わせ、チケットと宿が取れた。それに合わせて(和泉が25年前、半年間ホームステイした)オーストリアのインスブルックと(姪の美緒夫婦と友人の宮崎さんの家族が住む)パリにも寄ることにした。

9月6日成田発エールフランスでミュンヘンに向かい列車でインスブルックに着き、まずステイ先の故ペーター・トゥルナー夫妻のお墓参りをした。ガラスの墓石は建築家のペーターの自作、約10年ぶりの和泉と初対面の私たち夫婦をペーターの次男のフロリアンの家族は大喜びで迎えてくれて、2時間の思い出話と教会での音楽会の情報を得ておいとしました。

近くの登山、教会の音楽会などを楽しみ、クリスタルガラスで有名なスワロフスキーの本社があることを知り、バスで見学に向かった。アンディー・

ウォーホルの30万カラットの世界最大のカットクリスタルには驚いた。

インスブルックから電車を乗り継ぎオーバーアマガウに向かった。オーバーアマガウの街は世界中から劇を見に来た人でお店もレストランも賑やかであった。宿の主人も劇に出演するという、町中の人々が演者・衣装・道具・オーケストラ等、何かに関わっている。その村(今は町)にとって災害を免れた神の恵みに対する契約として始まった。10年毎に開かれる400年前から続く大切な受難劇である。主役のイエス、マリア、ユダ、ヘロデ…の役は誰がするか、誰もが知っているストーリーだけに、演出家も重要となる。30年前に観た友人夫妻の話から待ちに待ったPASSHION受難劇は圧巻であった。

その後、パリで数日間、古い街並みの良さを味わい、友人知人と会食を楽しんだ後、帰国した。9月17日成田に戻った。11日間の旅であった。今も劇中の、イエスを縛った白布が掛かり、釘跡の残る木の十字架が残像として心に残っている。



京都の旅

本川 悦子

平成から令和にかけて、京都へいきました。京都駅から近い東寺から、お寺巡りをしました。

東寺は、広い境内と建物を巡り、最後に美しい木造の建造物、五重の塔の前に立ちました。木造の建造物としては一番の高さですが、周りに溶け込み、ホッとする空間でした。

次に楊貴妃観音菩薩坐像が祀られている泉涌寺を訪れました。大門を入ってすぐ左に楊貴妃観音堂があります。ここは美人祈願、安産祈願、縁結び成就のパワースポットとか? もっと真剣にお参りをすればよかった、と後悔しきり!!

正面の仏殿に安置されている阿弥陀、釈迦、弥勒の三尊仏をお参りして、次は伊藤若冲と縁のある石峰寺に向かいました。

石峰寺は京阪電車の深草とい

う小さな駅を降りて、山に向かって10分くらい坂を上ったところにあります。山門はまるで中国のお寺を思わせるような、変わった造りです。4時閉門なのに、着いたのは10分くらい前でしたので、裏山だけならどうぞと言われて、本堂は拝観できませんでした。石像郡は見る事ができました。裏山いっぱいに置かれている、五百羅漢の石像は圧巻でした。石像郡はお釈迦さまの生涯が表現されています。コケが蒸して、朽ちかけてはいますが、楽しい、悲しい、嬉しいなど、それぞれの表情は伝わってきました。

日がすっかり暮れたので、石像郡とはお別れして、伊藤若冲のお墓を巡ってホテルに向かいました。



編集後記

キックオフの大切なブリテン7月号の発行が遅れてしまい申し訳ありませんでした。

寄稿していただいた方々に感謝申し上げます。内容は盛りだくさんでした。感謝カンシャ…。

私事で恐縮ですが、健康は大切と、つくづく思われるこの2週間でした。6月27日幼稚園の帰りに、体調がおかしいので事務会の前に病院へ行き、診察を受けると思わぬ結果報告、右臀部に带状疱疹が出ているとのことでした。2~3日は大した痛みでもなかったのですが、あらあらと患っているうちに痛みがひどくなり、座ることが出来なくなりベッドに横になり痛みをこらえる日々が続く、ブリテンどころではなくなってしまい、皆様にご迷惑をおかけしてしまいました。この痛みで七転八倒…苦しみました。本当に健康の大切さを思い知らされた日々でした。(T.O)